

# まじわり

四国障害者キリスト伝道会  
会長 丸木 道弘

事務局 TEL 781-5102  
高知市大津甲1404-37  
高知東教会 野口 幸生  
TEL FAX 088-866-3584  
編集 丸木 道弘  
2021.5.10  
年会費1,000円

## 五、会員の声

南国教会 松木 稔夫

別紙、四障伝修養会の歴史（※資料2参照）二〇一八年十月  
三十一日に召された鈴木實牧師が、今後の四障伝の為にと、資料として手書きでびっしりと書き残されたものを私がパソコン化したものです。

四障伝は、一九七一年二月二十八日、今から五十年前、須崎教会にて誕生しました。今は友輪荘で行っていますが、最初は各地区の教会で行っていたようですね。私が四障伝会計担当になり四障伝修養会に初めて出たのは、二〇〇一年、第二十八回の時で、講師が窪寺俊之先生の時です。最初に印象に残ったのは、その話の内容が大変良く、障害を持つ小さな群れに、どうしてこんな立派な先生が来られ、内容のある話を聞けるのかなあと、不思議に思つたことでした。それと見ず知らずの女性の方がたくさんいて、障害者の方々のお世話を一生懸命にして下さっている姿を見せられて少し戸惑いました。それが今も続けて下さっているボランティアオアシスです。二〇一五年七月、四障伝の上部団体であるキ障協の総会・修養会が、東京戸山サンライズであり、私が出席した時、四障伝にはボランティアオアシスという素晴らしい制度があると褒められたことが思い出されます。

第二十八回からずっと修養会に出ていて、気が付いたことはこの修養会には大変良い講師に恵まれていることです。どうし

てこんな小さな弱い団体に、立派な先生が来てくれるかなあと不思議に思つたことでした。それは障害を持つ弱い者の団体を神様が格別に顧みて下さっているからだと思います。

鈴木先生には、四障伝の機関誌である「まじわり誌」、今は一一〇号ですが、五十年前の一號誌から渡されました。このまじわり誌も四国の各教会に配られてきましたし、まじわり誌には修養会の内容が必ず書かれて来ましたので、各教会の四障伝修養会の祈りの基となって來たと思います。四国の教員の皆様のお祈りに支えられて、今の四障伝修養会があると思います。正常な立派な団体も五十年も続けるのは大変な事なのに、この小さな弱い団体が五十年間も続けて来られるとは神様の深いご愛お計らいを感謝します。順調なことばかりでなく、一九九七年、二〇一四年と台風で中止になつたこともありました。そして、今回のコロナによる二年連続の中止、本当にがっくりと来ます。二〇二二年には行われるよう祈るばかりです。その時は、涙と共に心からの感謝賛美の四障伝修養会となることあります。



## 六、鈴木 実 牧師 講演（故 隠退牧師）

一一〇一二年六月九日㈯ 四障伝高知地区会

コリントの信徒への手紙一 一二章一八～二六節

演題「弱く見える部分が必要 —教会と障害者—」

### ① 教会は障害者を求める。

マルコ福音書九・一四一二九を見ますと、山上で栄光につつまれていたイエス様が、三人の弟子たちを連れて、下りて来られたのです。そこには騒ぎがありました。群衆の中の一人が悪霊にとりつかれた息子を連れて來たのです。悪霊を追い出してもらいたいと求めました。弟子たちは先生のまねをして祈つたのですが、手に負えませんでした。これを見たイエス様は、嘆かれながらも、子供から悪霊を追放されました。十二人の弟子たちの九人が残つていたのですが、イエス様が不在では、この世にあつても何の力にもなりませんでした。

今日も変わりません。教会の形があつても、その中にイエス

様がいて下さらなければ、キリストの教会ではないのです。

イエス様が山から戻つて來られなかつたら、その父と息子は失望して去つて行つたでしょう。

イエス様が行く先々には、障害者が集つてきました。イエス様の存在を証しするものの一つは、障害者の存在でした。障害者が居ないと言うことは、イエス様がおられないと言うことでした。今日の教会においても、それは変わりません。

宴会を催すときには（ルカ一四の一三）、障害者を招きなさいと主は言われます。さらに大宴会に招いていた人たちが来なければ（ルカ一四の二一～二三）、街に行つて貧しい人や障害者を連れて来なさいと言われます。誰でも招かれますが、ただ礼服（信仰！）を着て入ることだけは求められています。御注意下さい。

イエス様のおられる所、即ちキリスト教会には、障害者の存在は欠かすことが出来ません。

### ② 障害者は「はづれ」か「個性」か。

障害者と言う言葉は、健常者に対し用いられます。健常者とは普通の人、平凡で取り換える可能な人と言うことです。どこにでも居る人たち、世の中の多くの人たちのことです。

それに対する障害者とは、ちがつた人たちのことです。健康的でない、はみ出し者であり、少数者なのです。普通の人たちを正常と考えるならば、異常と言うことになりますが、それは一面的な見方です。数の論理です。

世の中は数の問題であり、数は力なのです。健常者がまともで、障害者は、はみ出しと言うことになります。しかし、健常者が正常で障害者が異常だと言うのは、数の論理なのです。本当は逆なことも多いのです。真理は少數にあり、とも言われます。もしピカソが普通の絵を描いていたらどうでしょう。同じ絵が一点だけでなく、百点も千点もあつたとしたらどうでしょう。印刷されれば、世界の名画も私たちの手に入るでしょう。

言つてみればピカソだから不可解で良いのです。モジリアニだから、女性の顔が細長くても曲がついても良いのです。

障害者がはずれなら、天才奇才もはずれます。AINシユタインも障害者と言うことになります。杖をつかなければ歩けない者が障害者なら、百米を十秒以内で走る者も障害者です。世の中では障害者は差別されます。異常だから、少数だから、能力が弱いから、差別されるのです。もともとは「ちがい」であり「区別」でしかないのです。

世の中も変わつて来ました。障害者への偏見を見なおして行けないか。そういう事が考えられるようになつてきました。どうしたら良いのか、世の中で心の温かい人たちは考えてくれました。障害にはいろいろあり、区別されるけれど、差別するのは良くない。考えてくれた末に、障害は「個性」だと受けとめる。差別するのではなく、一緒に生きていこう。「共生」だと言うことになつて来ました。

大変ありがたい事であり、正しいことだと思います。しかし、無理があります。障害者は異常であり、能力が無い。一緒に暮らしていくのは嫌だと言う人たちも居るのです。人間が罪の力に支配されている所では、必ず出て来る問題です。

罪とは、造り主の神様に逆らって、背を向けて生きようとする力です。世界の本当の支配者である神様に背を向けたら、あとは自己中心、利己主義だけです。弱者、障害者にわざわざれたくないのです。世の中の善意も正義も罪の力を越えること

は出来ません。汚染土壤の受け入れ問題でも、一般的には賛成だが、身近な土地では反対します。これがこの世の現実です。罪を犯してエデンの園を追われて以来の形です。私たちの住むこの世は、エデンの東であり、罪の力の支配する所なのです。

### (三) 障害者はイエス・キリストを求める

障害は罪と深い関係があります。障害が罪の結果だと言うのではありません。しかし、障害者が差別されたり、不幸であるのは、罪のせいなのです。罪の壁が除かれなければ、障害者は救われないのです。

人間はいろいろですから、ちがいがあつてもいいではないですか。ちがう個性に造られたのは神様です。神様は万物を造られた後に、「見よ、それは極めて良かつた」(創世記一—三二)と言われました。ちがいやみ出しが差別されて、不幸だと言うことになつたのは、「罪の力の支配」のためなのです。

罪の壁を取り除くために、神の御子のイエス様が、すべての罪人の身代わりに、十字架につけられて下さいました。神様御自身に対する罪を神様御自身が受け止められ、裁かれて下さり、処理して下さいました。これから後、罪人は罪赦された神の子らとして、神の国(支配)の中に歩むように招かれています。

罪の支配する闇の世の中に、イエス様は、神の御国の命の光をもたらされました。まだ闇は続きますが、その中に、すでに夜明けの光のように、光の御国が始まっているのです(創世記一の三一、ヨハネ一の四九)。

障害者は特に、切に、イエス・キリストを求めるのです。イエス様は、たとえ片目、片手、片足がなくとも、「体の一部がなくなつても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。」（マタイ五の二九f）と言われます。障害者であることことが不幸なのではなく、天国に入れない事が不幸なのだと言われるのです。

偏る者、はずれる者と人は言います。しかし油断してはいけません。普通で平凡で中央に居るから安心と思っている貴方は、「まん中に偏っている」のです。もし悔い改めなければ、神様の愛と憐れみが与えないのでです。この点、皆同じです。

巨万の富を持つのが幸せか。百米を十秒以内で走るのが幸せか。知恵にすぐれ、世の中を肩で風を切って生きるのが幸せか。それも又、偏りであり、不幸のもとではないでしょうか。

誰であれ、キリストを持つ者、キリストにより神の国を持つ者こそ幸せなのです。内なる宝物が土の器を越えて輝き出るのです（第二コリント四の七）。器は宝によつて輝き、尊いものとされる。これが真の幸せなのです。

④ 障害者は教会を求める。そこにイエス・キリストが居られるからです。

障害者はキリストを求めて、教会に来ます。「キリストは教会の頭であり、自らその体の救い主である」（エフェソ五の二三）と言わわれています。

○ キリストのいます所に、神の家族があります。

○それが教会です。そこに求めてやまなかつた家庭があり、故郷があるのです。そこに、求めていた私の居場所があつたのです。英語で言うと „home“ です。

しかし、なおこの罪の世の中における事ですから、初めに言いましたマルコ九・一四一二九のよくな、キリストの不在と言ふ事が起きるかもしれません。それほどひどくなくても、いろいろな教会があるのかもしれません。しかし、神様は世界中のどんな両親にも子供を託して下さいます。同様に、どんな教会であつても私たちを託して下さったのです。もしどうしても合はないなら、家にひきこもるよりは、他の教会に移つたらよいのです。でも一番良いのは、まず祈ることです。教会のために、牧師のために祈ることです。神様は御自分の教会のために、そして貴方のために、きっと最善の御答を下さるでしょう。

いずれにせよ、障害者である貴方が礼拝に出ていると言うことは、貴方の主キリストがそこにおられると言う証しをしているのです。

教会に行つて障害者に接するたちは、あとで知るのですが、自分たちが触れていたのは、イエス様御自身であつたのです（マタイ二五の三五一四〇）。

教会に行つてキリストを見出す人は、人生最高の宝物を掴んだのです。もう「己」を土の器と嘆くことはありません。貴方が主と共に歩むなら、貴方はキリストの故に尊い者とされているからです（二コリント四の七）。

キリストにおいて真の神様を見出せた者は幸いです。キリストと共に生涯を歩む「同行二人」です。終の日に天国に迎えられること。すでに今から御国の民としていただいていると（ファイリピ三の二〇）、信じて いるからです。

すべてのものは過ぎ去ります。年をとるところは実感です。かわらないのは、眞の神様であるイエス・キリストとその御国です。為すべきことは、それぞれに与えられます。御心を行つて、恵みの花を咲かせて参りましょう。置かれた所で、花開き実を結びましょう。

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのはみな加えて与えられる」（マタイ六の三三）。

自分の肉体（肉に属するもの）で輝くのではなく、肉の器にいただいた宝物、イエス様の輝きの中で歩ませていただきまして。過ぎ去る栄光ではなくて、永遠に変わらない神様の愛と眞実の輝きの中を、天に向かつて歩いて行きましょう。そこに障害を越えた（忘れた）神の子らの生きる喜びがあります。世の宝ではなく、天の宝によつて生かされて行きましょう。

## 七、報 告

① 「まじわり」 No.108 の編集後記で、新会長に南国教会の松木稔夫会計がして下さることになりましたと報告いたしましたが、引き続いて丸木道弘がさせていたただくことになりました。何卒よろしくお願ひいたします。

### (二) 全国キリスト教障害者団体協議会（キ障協）の総会・修養会の延期

・四障伝が担当事務団体として道後友輪荘で七月六・七日（月・火）に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの関係で来年に延期になりました。

### 《編集後記》

復活の主の御名を賛美いたします。

新緑の候、皆様には主にあつて、お元気なことと拝察いたしております。

今年の十月に四国障害者キリスト伝道会の修養会・総会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で去年に引き続き、流会に止むなくいたしました。来年こそは開催できますようにお祈りをお願いいたします。

講師の牧師及び開会礼拝、早天礼拝、閉会礼拝の各牧師及び証しのお二人の方々には、引き続きよろしくお願ひいたします。皆様方の上に、主の恵みと憐れみと慈しみと平和が豊かになりますよう心よりお祈りいたしております。

### 栄光在主